

第2回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時: 令和2年12月23日(水)18時00分～19時30分

場 所: 宗像市役所103A会議室

出席者: 船越会長、高杉副会長、納富委員、牛島委員、井手委員、大和委員、

原田委員、井中委員、安枝委員、荻野委員、棚橋委員

事務局: 高宮教育長、(子どもグローバル人材育成部)徳永部長、(子ども育成課)本田課長、(教育政策課)名切指導主事・川原指導主事、(子ども支援課)姫野係長、(子ども家庭課)山本係長、(子ども育成課)賀来参事、田中係長、三吉

【会議内容】

1 あいさつ

(教育長よりあいさつ)

2 報告事項

事務局から説明(説明内容は省略)

- ・令和2年度幼児教育事業報告について【資料1】【資料2】
- ・令和3年幼児教育事業について

3 協議事項

事務局から説明(説明内容は省略)

- ・特別支援の総合的支援の推進に向けての課題について

【委員からの意見】

- ・通常学級に個別の介助が必要なお子さんはいっぱいいる。通常学級、支援学級の先生、教師側の指導力をやはり高めなきゃいけないのではないかな。
- ・福岡県の重点事業ということで宗像市が「通常の学級における特別な支援を必要とする児童・生徒に関わる教員の指導力向上を目指した支援体制の整備」というのを3年間受けていると聞いている。宗像市の教員(小学校・中学校の教員)はそういう指導力を向上するための研修や学ぶ場をいろいろやっていけないといけない。子ども達の支援のために保・幼・小・中が共同で学べる場というのがあっていいのではないかな。
- ・配慮が必要なお子さんに対する、情報が充分届けられていない。指導計画を情報共有させていただくと、学校としてはありがたい。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが保育園・幼稚園にも必要で、あればそこも情報共有ができるのではないかな。
- ・社会性や行動面に課題があり、集団療育のニーズのあるお子さんがかなり増えてきているというのが、この数年ののぞみ園の状況。その中でも、自閉性の特性が強いなど、特別な配慮が必要なお子さんたちが、就園する年齢になってもなかなか就園先を見つけれずに苦労したり、年長まで就園せずに就学

したりする場合もある。

- ・のぞみ園では、6月・10月・2月のタイミングで、1人40分の枠で個人懇談を行い、保護者とともに「児童発達支援計画」の目標を設定したり、それを評価して見直しをしたりしている。そこで、保育園や幼稚園との連携を断られる場合は難しいが、そうでなければ、6月の懇談の情報(その年度の最初の目標などについて)を幼稚園や保育園の先生方と共有できると良いのではないかと思う。
- ・「のぞみ園でどんなことをしている」とか「どんなふうにお子さんを支援すればいいのか」といった情報が入ってこないことを聞くので、そこはやっぱり我々の課題である。
- ・以前はコーディネーター研修で、園のコーディネーターの先生と交流し、その園にいるお子さんの課題や情報を共有できていたが、今はできていないので今後、共同で継続期の支援の充実を図っていきたい。
- ・保育園で生活して成長するにつれて、少し配慮が必要かなというのが分かる。
- ・専門的な知識がないまま本当に悩みながらそのお子さんと向き合っていくが、やはり自信を失い保育士という職を、あきらめてしまう職員も今までいた。
- ・お子さんや家庭の支援体制をもっと考え直さないといけない。サポートする保育園、行政、のぞみ園がもっと密に連携を取っていけば、その家庭でもお子さんにとってもいい支援ができていくのではないか。
- ・支援の計画が共有できれば、もっとお子さんに沿って支援ができていく。
- ・4 歳児健診とかいろいろ健診など、情報をもっとお互いに密にとっていけたらよい。
- ・支援の体制自体の全体的な大枠を、もっと見つめ直していかなければ、この問題は解決しない。
- ・いろいろな障害は個性で、先生たちだけではなくて、家庭でも子どもにこういう個性があるということを教えられるように、ちゃんと正しい知識を保護者としてもっと教えたいと思う。
- ・子ども達同士で助け合えるような環境が作れるためには、親がちゃんと正しい知識を持っていないとできない。正しい知識の資料を教えてもらえれば家庭でも助かる。そういうのを知っていれば、例えば自分の子どもが成長してきて「あれ？」とすぐに気づけるし、気づけばまたそこから先の相談も早くできる。
- ・お子さんだけじゃなくてその周りの家族にも目を向けていくことが大事。
- ・親に対するアプローチが今足りていない。
- ・本当に子どもに対する大事なこと、生活リズムの事や早寝早起きや朝寝坊はダメなど、そういう資料を親向けに積極的に配ったりして、その中で幼稚園・保育園との連携も必要。
- ・今いろいろ特性がある子もいるということを親が理解して、そういう子たちを受け入れられるような土壌作りが大切。
- ・親のしつけではなくて、その子が持っている特性だということを他の親も理解した上で、クラスには何人かいるのが現状だから、その中で一緒にどうやって行くかというのを考えていける体制づくりというのが一番必要。
- ・1 歳半健診と3 歳の集団検診のとき、相談はしたいがその時間まで付き合えない、早く去りたい、でも相談はしたいという気持ちがあるお母さんは中にはいらっしやると思うので、そういうお母さんには、1 番最初に相談に乗るとか、チェックボックスを作っていただけると回りやすい、拾いやすいと思う。
- ・学校では、4 月の時点で支援学級のクラスについては通常の学級に説明はしているとのこと。ただそれが子ども達に伝わるような目線や伝わるような感覚で、みんなに知らせているのかな思った。個性ということを低学年、幼稚園のうちから、人がそれぞれ一人一人持っているもので、別にそれが何が悪いとか

何が良いとかじゃなくて、みんなが仲良くできる世界でやっていけるとよいと感じた。

- ・現場は保育士不足で、特別支援の子を受け入れることが厳しい状況がある。配慮のいるお子さんたちに対する関わり方について悩んでいる先生方もたくさんいる。
- ・毎年研修会を組んでいただいているが、その対象者の中にぜひパートさんや学童の指導員さんを入れてほしい。
- ・コロナ禍で集まることがやはり厳しいので、うちの園ではオンラインで園の中で研修を受けている。オンラインやコミュニティセンターやいろいろなところだと、数多く話を聞きたい方たちにとって身になると思った。
- ・人手不足を解消するには是非、地域の方たち、60代の方たちにもうちよつと目を向け、そういった方たちの人材育成というのを検討していただきたい。
- ・学生ボランティアを、是非いろいろなところに派遣していただきたい。
- ・今年は地域の子育てサロン、地域の開放事業が全然できなかった。子ども達の遊びをどう保証してあげるかをすごく悩む。
- ・外で生き生きと遊べる場所、自分で遊びを選ぶ、それが生きる力につながる。子どもの心と体をつくることと、他のお子さんとの関係。順番を待ったり、自然に遊びの中でそういうのを学んでいくと思うので、外遊びを充実させていきたい。そのために何か仕掛けがある公園整備を進められたらよい。
- ・集団生活に配慮が必要な子どもが、増えてきているというのは確かである。実際本園にも、かなり発達相談が寄せられるようになってきた。
- ・幼稚園においてもすべての教職員の指導力アップすることは大事だが、キーパーソンを育てることも非常に大事だと思っている。
- ・一人一人の特性・個性、それは様々で個人差が大きいというのを勉強で意識していかないといけない。
- ・巡回相談は、宗像市のシステムでとても素晴らしいシステムだと思っている。巡回相談員が継続して支援が必要な園児の様子を観察しに来られ、やりとりして見て協議をされる。教職員が具体的に、自分が受け持っている子どもへの支援の具体的な助言をいただけるのは非常に有難い。
- ・巡回相談の他にも就学相談や発達支援室の園訪問など様々仕組みされている。
- ・小学校との連携では、保幼認小義の連絡会をさらに充実させてもらい、一人一人の幼児の特性を生かした支援について密に相談できるような体制をお願いしたい。
- ・今年、1番頭を悩ませているのが、障害を持っているお子さんの受入れである。1つは、人件費、加配の問題。そして加配もどのような支援員を配置するか、例えば医療的ケアが必要か安全確保が必要か、その子に対するケアができるという配置が必要なのか。担任の先生以外の先生が配置される加配の配置は園で受け入れる中で、医療機関や発達支援の機関との連携する上において非常に助かる。
- ・保幼認小義の情報共有で、情報が一番ほしいのと、情報と支援の共有を進めていってほしい。
- ・個別のケース会議の開催など、バランスのとれた特別支援教育の充実は、支援の充実だと思う。
- ・先生方が今の現状や課題をすごく真摯に受け止められて、どう解決すればいいのかを提案していただき、とても心強いと思った。
- ・特別支援に係る専門性のある人材の育成っていうのがまだまだ不十分ということだと思う。
- ・リーダーたちは、コーディネーターのトップをつくり、いつもケーススタディをしたり、専門性を高めたりと

いう仕組みづくりを大切にしている。

- ・人材の候補者がもっといっぱいいる。幼児教育、学校教育で働かれて、60 歳で定年され、興味関心を持っていて支援をしようという方たちの、人材育成ができる仕組みを作ることができたらよい。
- ・もう1 つ隠れた資源っていうのが保護者の方。ペアレントメンターという形で多面的に支援者を増やしていけるような仕組みがあったらよい。
- ・宗像市も研修などの素晴らしいお話をホームページに動画で載せてもらい、みんなが見れるように頼んだり、誰でもが支援者になれる戦略もあると思う。
- ・就学サポートノートに書かれたものが残っていると、何度も同じこと言わなくていいし、親御さんの負担も減る。学校も先生方と相談しながら書いた書類だから信頼性もさらにあり、安心して引継ぎができる。
- ・未就園について海外では、訪問してアセスメントする。そこで一緒に遊んで、お家での遊びを例えば月2 回、月1 回とか訪問指導する。そうすると親御さんの力も付く上に、よりよい環境も作れ、幼稚園や保育園につながっていく。
- ・宗像市の先生たちは意識が高く、子育て支援も含めてレベルが高いと思う。後は今日ご意見が出たようなところに情報提供したり、今ある仕組みを活用して、さらに切れ目がないような支援が続いていけばよい。
- ・この辺は、コーディネータというのはベテランの先生がなるから、コーディネーターが保育所に入ってやって、とにかくチームティーチング。これができる体制をつくるのが園長の仕事
- ・連携をとるのは、コーディネータの先生も忙しいのでこれ以上の会議は難しい。
- ・巡回相談の時のデータを幼児教育側と小学校側が、どちらもいつでも見れるデータベースを作るとよい。
- ・幼児教育のときの育ち、小学校で困っている情報が双方向で見えるようなデータベースのシステムができればお互いによい。
- ・あと、個人情報のデータをどう乗り越えるか。もしそれができたときには、かなり困っている子どもにも、それを育てている教員・保育士にもかなり有効な手段になる。
- ・コンピューターはきちんと傾向が出ますので、幼児教育の時の育ちのデータと小学校のデータをお互いに見れるようになったら指導に活かせる。
- ・滋賀県の湖南市で、全部個人情報の事もクリアして、関連機関がきちんとデータを見合えたり、そのまま引き継げたりする仕組みで、10 年前に既に構築してずっと運用しているはず。同じような仕組みは、ハワイ大学に行ったときに、小児科の障害専門の先生が、病院と療育機関のデータを、管理者の責任のあるあいだは、見ることができる仕組みを作っていった、子どもの為に情報共有できていた。

4 連絡

- ・来年度の審議会の開催について

5 閉会のあいさつ